

文大生の 故郷と都留

15

族旅行は八ヶ岳などの自然が多い所に行くことが多く、自然に触れるのは気分が爽やかになつていよいよと思つていました。

だから喜んで都留に来たのです
が、自然に囮まれる生活をして苦

した。自分は自然の本当の姿を覗いていなかつたのかもしれません。今も台風の日などは怖い思いをしますが、自分が自分を育んでいるのだと思うと温かさを感じるようになりました。そう思った時、私は都留で自然と触れ合えたからいいけれども、名古屋の人が地元で自然に出会える所はあるのだろうかと気になりました。

私が初めて都留市に来たころ、困つてしまつたことがあります。静かすぎて寝られないことと、圧迫感を感じました。私の下宿の裏には畑があり、その向こうには山が連なっています。夜は山が冷氣を帯び、山から下りてくる空気が音を持たないほど冷たく澄んでいて、私を怖がらせたんです。昼間も空を見ると視界の隅に山が映ることが多かったので、山に見られていているという気がして圧迫感を感じ、苦しくなりました。

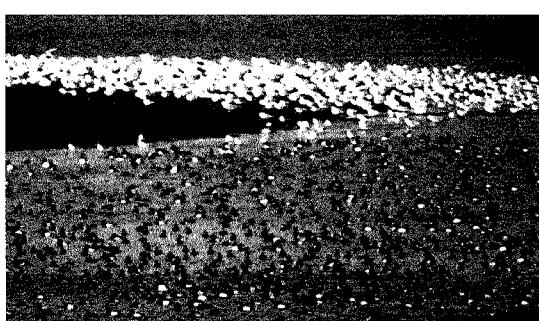


干湯で食をとるダイサギ

さと水の持つ純粋さによって、生き生きとした命を感じます。自然の命は、土の持つ温かさが心地よかつたのを覚えていました。しかし、現在は周辺の住宅から出るゴミなどで生態が崩されつゝあり、市に申請しなくては入園することができなくなってしましました。既にトウキヨウ山椒魚など、絶滅したものがあるそうです。保護されている自然がカッコ付きの自然なのだと知らされました。名古屋市には自然が一握りしかいないので、環境が汚染されれば、すぐに危険信号を発します。人が多いので、ゴミの分別はほとんどないで、徹底しており、名古屋市はプラスチックを不燃物として扱

はモウセンゴケが小さな虫をその
ネチネチした葉に捕まえており、
その周りにはシラタマホシクサが
緑のじゅうたんに白い星々をちらり
ぱめたかのように花を咲かせてゆ
れていました。近くの土管の中で
は、黄土色でいぼいぼの肌をした
山椒魚にも偶然出会うことがで
き、本来はこのような所に生息す

い、缶・ビンは別々に回収しています。しかし、ゴミの量は増えています。そこで、藤前干渴をゴミ埋め立て地にするかどうかという計画も出てきています。父がフラミングを始めたと言つたので藤前干渴には一度行つたことがあります。残念ながら田当てのフラミングには会え



ラゴダ王(手前)とヨルカ王子(奥)の大群(落前王湯)

自然なのだと思い知らされました。
名古屋市には自然が一握りしか
ないので、環境が汚染されれば、
すぐに危険信号を発します。人が
多いので、ゴミの分別はほとんど
の地域で徹底しており、名古屋市
はプラスチックを不燃物として扱

せんでしたが、一面に渡り鳥が集つていたし、間近にサギを見ることができました。島田湿地だけではなく、ここもゴミによつて壊されるともしかなくなるのかと思ううついました。

そんな時、都留市のゴミ管理の

甘さが目につきました。プラスチックが可燃物の袋に入つていて、昔からの習慣で川に生ゴミだけではなくナイロン袋も流しています。名古屋であれだけゴミが管理されていて被害が問題になつてはいるのだから、都留市のゴミ汚染はもつとひどいだらうなと思いました。

確かに、都留の自然は大きくて、ぱらりとしていますが、それゆゑに汚染を受け止める力も大きく、被害が目に見えていないのがもしません。というより、私はその問題の大部分が桂川によって下流域に流されていると思いました。佐伯橋からも川面にゴミが流れているのが見えました。後で、神奈川の水道水がこの川から引かれていたことを知り、鳥肌が立ちました。このことに対しても、上流・下流の市民・事業者・行政の方々が川をきれいにしようと頑張つていらっしゃいます。一人ひとりがきちんと意識してゴミ問題を考えてもらいたいですね。ただ、ゴミの分別に関しては、一人が細かく分別してもその通り回収される訳ではないので、このことは市にも考えてもらいたいと思っています。

そして、都留に来て自然の大きさにびっくりしたとか、誇りにしていると言う人は多かつたのですが、その割りにゴミに無頓着な人が多いと感じています。私は大学進学でここに来ましたが、それだけで終わるのではなく、ここが第二の故郷と誇れるぐらいの市になつてほしいし、そうしたいと思っています。都留の自然をいつまでも大切にしたいと思います。